

2010 年度

月日	テーマ	講師	内容
2010 年 9 月 19 日	乳幼児の発達と障害	宮崎千明（福岡市立西部療育センター所長）	乳幼児の発達についての基本的考え方と、発達障害を抱えた子どもとの関わりについて。
2010 年 10 月 26 日	愛着形成に課題をもつ子ども	森田展彰（筑波大学教授）	親からの虐待やネグレクトなどの影響で、愛着形成が困難な子どもへの理解と関わり方について。
2010 年 11 月 13 日	アセスメントと養育計画	山田勝美（山梨立正光生園 園長）	子どもたちの抱えている問題を理解し、養育に活かしていくための視点について。
2010 年 12 月 12 日	こころの糧としての子ども時代	村瀬嘉代子（日本臨床心理士会 会長）	子ども時代をどう過ごすことが、大人になってからのこころの糧となるのか、講師の実践をもとに考える。
2011 年 1 月 16 日	子ども虐待へのケアを草の根で広げよう（公開フォーラム）	杉山登志郎（浜松医科大学児童青年期精神医学講座 特任教授）	虐待を受けた子どもを様々な角度からケアしていくことの必要性和、地域の中で虐待をどう防いでいくのかについて。
2011 年 2 月 8 日	家庭で育つということ・家族を支えるということ～国連ガイドラインについて学ぶ～	山本裕子（西南学院大学社会福祉学科 准教授）	国連子どもの代替養育に関するガイドラインについて学び、日々の養育実践について見直す。
2011 年度			
月日	テーマ	講師	内容
2011 年 9 月 18 日	性的虐待／ケア・スタディ	西澤哲（山梨県立大学）	性的虐待についての現状と、子どもへの影響について学び、日常の子どもの性化行動にどのように対応していくかを検討する。
2011 年 12 月 17 日	家庭的養育におけるストレスマネジメント	大澤智子（兵庫県こころのケアセンター）	トラウマを抱えた子どもを養育する養育者が抱えるストレスについて学び、ストレスにいかに対処するかを学ぶワークショップ。
2011 年 1 月 15 日	家庭的養育における実親家庭との連携／ケア・スタディ	広岡智子（子どもの虐待防止センター）	里子の実家族と里親がどのように関係をつくり、連携していくのか、講師の実践をもとに学ぶ。
2012 年 3 月 17-18 日	「私は育てられた・私は育てる～自分史から振り返る里親養育～	森茂起（甲南大学）	養育者自身が自分について振り返り、日々の子どもとの関わり、養育についても振り返っていく合宿ワークショップ。

2012 年度

月日	テーマ	講師	内容
2012 年 10 月 7 日	愛着形成に課題をもつ子ども	高井美和（セラプレカウンセラー）	発達障害や、愛着障害などにより、関係づ

	つ子どもとの関わり方～セラ・プレイ技法に学ぶ～	ソグセンター東京 所長)	くりの難しい子どもとの関わりについて、セラ・プレイの理論や技法に学ぶ。
2012年11月18日	子どもの人生をともにつむぐライフストーリーワークⅠ(基礎編)	藤澤陽子(国立武蔵野学院心理療法士)	里親委託の前と後、施設入所の前と後などで途切れがちな子どものライフストーリーを、里親や職員が丁寧につなげていくことが子どもの成長やアイデンティティ形成にいかほど重要であるかを学び、実際に子どもとの間で直面したライフストーリーにまつわる課題をケア・スタディしていく。
2013年2月2日	子どもの人生をともにつむぐ ライフストーリーワークⅡ(実践編)	藤澤陽子(国立武蔵野学院心理療法士)	子どものライフストーリーワークを実際に行っていく時に重要となるポイントや、留意点について学び、里親が実際に子どもとの間で行ったものを持ち寄り、検討する。さらに、実親との別離を対象喪失という視点も持ちながら、より実践的に学んでいく。
2013年3月2-3日 宿泊研修	私は育てられた、私は育てる	森茂起 (甲南大学)	養育者自身が自分について振り返り、日々の子どもとの関わり、養育についても振り返っていく合宿ワークショップ。

#### 2013年度

月日	テーマ	講師	内容
2013年8月4日	子どもの人生をともにつむぐ～里親養育における喪失について～	松崎佳子 (九州大学大学院 教授)	幼少期の実親、実家族との別れ、住み慣れた地域との別れ、保育園や学校との別れ、子どもたちは様々な別離と喪失を体験している。
	ケア・スタディ		そのような別離と喪失が子どもにどのように影響するのかを学び、ともに子どもの人生をつむぐ大人として、どう寄り添っていくのかを参加者の養育実践をふまえながら、ケア・スタディする。
2013年11月6日	子どもの忠誠葛藤(Royalty Conflict)～実親との関係葛藤をどう乗り越えるか～	Dr.Cristian Posch (SOS 子どもの村インターナショナル教育担当)	子どもたちの実親や実家族と里親やその他の養育者、子ども、この三者の関係性からどのような葛藤がおこりうるのか、また、その葛藤をどのように乗り越えていくのかを学ぶ。
	ケア・スタディ		
2014年2月15-16日 宿泊研修	Circle Of Security (サークルオブセキュリティ) に学ぶ子どもの愛着行動	北川 恵(甲南大学 教授)	子どもの愛着行動の特徴と、そこに関わる養育者自身の関わりの特徴をみなおし、子どもとのよりよい関係づくりについて学ぶ。

	物語が生きる力を育てる	脇 明子(ノートルダム清心女子大学)	絵本を楽しみながら、物語が生きる力を培っていくことについて学ぶ。
--	-------------	--------------------	----------------------------------

#### 2014年度

月日	テーマ	講師	内容
2014年7月13日	フォスタリング・チェンジ～子どもとの関係を改善し、問題行動に対応する方法～	上鹿渡和宏(長野大学准教授)	イギリスで里親のためのペアレントトレーニングとして大きな支持を得ている「フォスタリングチェンジプログラム」の考え方を学び、養育者が「困ったなあ」と感じる子どもの行動をどう理解し、どう関わっていくのか、日常の養育に活かしている研修会です。
2014年12月14日	子どもの忠誠葛藤(Royalty Conflict)～実親との関係葛藤をどう乗り越えるか～ ケア・スタディ	松崎佳子(九州大学大学院教授)	子どもたちの実親や実家族と里親やその他の養育者、子ども、この三者の関係性からどのような葛藤がおこりうるのか、また、その葛藤をどのように乗り越えていくのかを学ぶ。
2015年3月28日	社会的養護の質を問う～子どもの権利にもとづく実践とは～	午前の部: IFCA ユース5名 午後の部: 山本裕子(福岡市子ども家庭支援センターセンター長)	当事者の声を聴き、Quality4Childrenについて学ぶ。

#### 2015年度

日時	テーマ	講師	内容
2015年8月30日	虐待とトラウマへの理解とケア ケアスタディ	亀岡智美(兵庫こころのケアセンター副センター長)	虐待によるトラウマ反応を理解し、日常の中でのトラウマケアについて学ぶ。
2016年1月23日	子どもとのよい関係を築く家族の力動 ケア・スタディ	早樫一男(同志社大学)	家族療法における家族システム論を学び、家族をひとつのシステムとしてとらえ、個々の家族メンバー同士の関係性を重視し、それをもとに家族を全体として理解していく視点を学ぶ。

#### 2016年度

日時	テーマ	講師	内容
2016年10月1日	思春期を子どもとともに乗り越える～あたりまえのこと(創意工夫)ができる専門性～ ケアスタディ	相澤仁(前国立武蔵野学院学院長)	社会的養護の子どもとの日常生活の中で交わす、余韻の残るコミュニケーションの大切さ、養育者のセンスを育てるために必要なこと、子どもとの信頼関係を築くために必要なこと、など、相澤先生の長年の経験に裏打ちされた、社会的養護の子どもと関わる時に大切な「あたりまえのこと」ができる専門性についてお話をうかがいます。

2017年2月5日	思春期と性～社会的 養護の子どもの性の 理解と対応～	岡本正子(大阪教育大学 非常勤講師)	子どもの健康的な性の発達と、虐待や不適 切な養育の影響による性化行動との違い、 性に関する子どもの行動への理解を深め、 その対応について学びます。
	ケア・スタディ		

2017年度

日時	テーマ	講師	内容
2017年12月5日	自立を支えるもの・ 「子どもの声を聴 く」とは？ ～子どもの権利にも とづく代替養育～	Irwin Elman 氏 ( Office of the Provincial Advocate for Children And Youth 所長)	代替養育関係者が、カナダオンタリオ州の アドボカシー活動を通して、措置決定時 や、代替養育中、自立に向けた期間におけ る「子どもの権利にもとづく (Right Based)」支援の在り方を学び、アドボカシ ーの基本である「子どもの声を聴く」こと について理解を深めていきます。
2018年2月18日	怒りの背景にあるト ラウマと愛着障害へ の理解と配慮	三ヶ田 智弘 先生 (大分こども心理療育 センター愛育学園はば たき センター長・児童 精神科医)	万引きや金品持出し、養育者や他の子への 暴言や暴力的なコミュニケーション、その 行動の背景を理解します。

月日	テーマ	講師	内容
8月16日	子どものいのち・生活・発達をめぐって 一子どもの「危機」と児童福祉の課題	湊上継雄(こども・福祉総合研究所)	わが国の子どもたちがおかれている環境や現状をふまえた、児童福祉の現状と課題について。
	社会的養護を必要とする子ども達 —社会的養護の現状と課題	藤林武史(福岡市こども総合相談センター)	福岡市における社会的養護のしくみや子どもたちの現状と課題について。
9月16日	日本の児童養護と諸外国から学ぶもの	津崎哲雄(京都府立大学福祉社会学部)	日本における社会的養護の現状と、諸外国の状況を比較し、課題を探る。
	「SOSキナードルフ」と「子どもの村福岡」の目指すもの	坂本雅子(小児科医)	世界で活動する「SOSキナードルフ」について学び、「子どもの村福岡」の目指すものを参加者と共有していく。
10月20日	子どもの権利擁護を実践するために	松浦恭子(弁護士・女性協同法律事務所)	弁護士の立場から、子どもの権利擁護をいかに実践していくかを学ぶ。
	子どもの発達と愛着の絆	満留昭久(国際医療福祉大学)	子どもの発達に必要な「愛着」の基本的な考えを学び、子どもが特定の養育者とのように愛着を築いていくのかを知る。
12月22日	世界のSOS子どもの村の取組み	金子龍太郎(龍谷大学)	世界133カ国で活動を展開する「SOS子どもの村」の理念や取組みを知る。
2月17日	子どもの村福岡のしくみ	坂本雅子(子どもの村福岡 副理事長)	
	里親制度Q&A	小池久美子(福岡市こども総合相談センター 里親担当)	里親制度について学び、里親に必要な要件や里親登録について知る。
	家族と暮らせない子どもたちを育ててI	藤田芳枝(児童養護施設和白青松園)	児童養護施設での子どもたちの日常生活や、日々の実践のなかで感じていることなどのお話を聴く。
	グループディスカッション「子どもの村福岡に期待するもの」		子どもの村福岡ができることで、社会的養護の現状や子どもたちにどのような変化をもたらすのかをグループディスカッション。
3月16日	家庭で暮らせない子どもへの理解	山下洋(九州大学精神科神経科)	児童精神科医として家族と暮らせない子どもたちの診療にあたっている講師より、社会的養護の子どもたちが抱える心と体の発達の課題について学ぶ。
	家族と暮らせない	中島浪子(里親)	里子を養育している里親さんに、日々の生活

	子どもたちを育ててⅡ		についてお話を聴く。
	グループディスカッション「私たちに何ができるか①」		家族と暮らせない子どもたちの現状や課題をふまえ、私たちひとり一人に何ができるのかをグループでディスカッション。

2008-2009

月日	テーマ	講師	内容
5月18日	子どもの発達と環境	山田真理子(九州大谷短期大学幼児教育学科)	子どもの心身の発達についての基本的な内容と、子どもを取り巻く、遊び環境、メディア環境などがどのように発達に影響をするのかを学ぶ。
	グループディスカッション「私たちに何ができるか②」		地域で暮らす私たちが、家族と暮らせない子どもたちのために、何ができるのか、グループでディスカッション。
6月15日	子どもの成育と空間デザイン	竹下輝和(九州大学大学院都市・建築部門)	子どもが育つ居住空間の変遷や家族コミュニケーションのあり方の変化を学び、子どもが育つ環境としての家のあり方を考える。
	グループディスカッション「子どもの村開村に向けて」		1年後の子どもの村開村に向けて、参加者一人一人が子どもの村をボランティアとして支えるため、何ができるかをグループディスカッション。
7月20日	子ども・家族・社会	坂本和子((特)アン基金プロジェクト)	子どもと家族をふくむ社会という環境がいかに子どもの養育に影響するのか、里親・里子支援を行っている講師の実践から学ぶ。
9月21日	地域シンポジウム2008 「親となること・家族となること・共に暮らすこと」	庄司順一(青山学院大学文学部)	里親と里子が地域のなかで、地域住民にも支えられながら、どのように家族となっていくのか、自身の里親としての実践をもとにお話しいただく。
	「子どもと育つ地域」	鈴木玲子(NPO 法人彩の子ネットワーク)	地域のなかで様々な子育て支援を行っている彩の子ネットワークの活動から、地域のなかで必要な子育て支援について学ぶ。
1月17日	子どもたちに必要な日々の営み	相澤仁(国立武蔵野学院)	幼少期に心身に深く傷を負った子どもたちを家庭的な環境で養育することや日々の生活の大切さについて、講師の実践から学び、グループディスカッション。
	グループディスカッション		
3月15日	子どもの SOS を感じ取るセンシティブティーワークショップ	山田真理子(九州大谷短期大学幼児教育学科)	子どもが発信する SOS を感じ取ることのできる感性を養成するためのワークショップ。

2009-2010

月日	テーマ	講師	内容
5月17日	乳幼児から学ぶこころの土台	渡辺久子(慶応義塾大学医学部小児科)	小児科医の視点から、こころの発達における、乳幼児期の重要性について学ぶ。
	こどもと遊ぶわらべうたⅠ	大屋省子(声楽家)	遊びを通して子どもと大人が交流することのできる、日本に昔から伝わるわらべうたや、手遊びを実際に体験するワーク。
6月21日	「気持ちを伝える言葉」「ことばで遊ぶ・かかわる」ワークショップ	濱崎けいこ(劇団「二人の会」女優)	自分の気持ちを相手に伝えるとはどういうことか、どのように相手に伝わるのかを体験。また、ことばで子どもと関わる遊びなどを体験するワークショップ。
7/18-19	気持ちを感じる、気持ちを伝えるコミュニケーションワーク	岩橋由莉(表現教育家)	相手の気持ちを感じ、自分の気持ちを伝えるということ、五感を通して様々に体験するワークショップ。
	気持ちを描くクレパス画	小川直美(クレパス画家)	クレパス画を楽しみながら、子どもが描く絵から子どもたちが発する信号をキャッチする感性を磨くワークショップ。
	相手の声を聴く、自分のこころを聴く～音楽体験ワーク	溝上由紀子(音楽療法士)	相手の気持ちや状況を声や音声、音楽を通して感じ取ることを体験するワークショップ。
9月27日	子どもの心の発達	山田真理子(九州大谷短期大学幼児教育学科)	子どもの心の発達の基本的な考え方を学ぶ。
	子どもと遊ぶわらべうたⅡ	大屋省子(声楽家)	わらべうた、手遊び体験ワーク第2弾。
10月18日	発達障害の乳幼児を育てる	宮崎千明(福岡市西部療育センター)	子どもの発達障害とその子どもの養育を考える。
	親子でできる体あそび(日常生活における感覚統合)	濱中真実(NPO法人なごみの杜)	作業療法士による日常生活でできる体をつかった親子遊びの体験ワークショップ。
11月21日	虐待を受けた乳幼児への関わり	山崎知克(浜松市発達医療総合福祉センター)	乳幼児期に虐待を受けた子どもが呈する症状や行動について学び、養育のなかでどのように関わる必要があるかを学ぶ。
	SOSキンダードルフと子どもの村福岡	山本裕子(西南学院大学人間関係学部社会福祉学科)	
1月17日	社会的養護の子ども健康課題	安元佐和(福岡大学医学部小児科)	社会的養護の子どもが抱える身体的発達や健康面での課題を小児科医に学び、そのケアの方法を知る。
	乳幼児の歯磨き	中山恵美子(福岡市保健福祉局)	乳幼児の歯磨きやアトピーや皮膚疾患ケアなどのスキンケアについて歯科医・皮膚科医

	乳幼児のスキンケア	西江温子（国立病院機構福岡病院）	に学ぶ。
2月21日	社会的養護の乳幼児の生活習慣の課題	平田ルリ子（清心乳児院）	施設で育つ子どもたちが抱える生活習慣の課題を知る。
	楽しく食べる乳幼児の食事	早淵仁美（福岡女子大学人間環境学部栄養健康科学科）	乳幼児の食事について、栄養士に学ぶ。
3月20日	乳幼児の実親への理解	松崎佳子（九州大学大学院人間環境学研究院）	乳幼児を抱える親がどのような困難を抱える可能性があるのか、虐待のリスクについてなどを知る。

#### 2011-2012

月日	テーマ	講師	内容
4月17日	家族と暮らせない子どもたちをはぐくむ福岡市の取り組み～今までとこれから	藤林武史（福岡市子ども総合相談センター所長）	福岡市における社会的養護の現状と、里親普及の取り組みについて現状と今後の課題を学ぶ。
6月19日	子どもの権利条約と国連オルタナティブ・ケア・ガイドラインの実践	山本裕子（西南学院大学 教授）	子どもの権利条約を基盤とした、世界の子どもと家族のための代替養育ガイドラインについて学ぶ。
8月21日	子どもの発達を保証する愛着の絆	満留昭久（国際医療福祉大学 副学長）	子どもの発達に不可欠な愛着について学び、乳幼児期から子どもが愛着を基盤にどのように形成されるのかを考える。
10月16日	実親と暮らせない子どもたちのこころ・発達・支援	松崎佳子（九州大学大学院人間環境学研究院 教授）	社会的養護の子どもたちの心身の発達について学び、その子どもたちに必要な支援について考える。
11月20日	里親家庭で生活することの意味～子どもたちは生活の中で何を獲得していくか～	横堀昌子（青山学院女子短期大学子ども学科 准教授）	里親家庭のなかで、子どもたちが何を獲得していくのか、里親ファミリーホームの実践から学ぶ。
12月18日	実親を理解し支援するために	河浦龍生（福岡市子ども総合相談センター子ども緊急支援課長）	貧困や精神疾患、子育ての孤立など、社会的養護に子どもを預けなければならなかった実家族の状況を理解し、支援していくことについて学ぶ。

#### 2012-2013

月日	テーマ	講師	内容
5月20日	家族と暮らせない子どもたちをはぐくむ	瀬里徳子（福岡市子ども総合相談センターこ	福岡市における社会的養護の現状と、里親普及の取り組みについて現状と今後の課題を



	くむ福岡市の取り組み	ども支援課長)	学ぶ。
7月14日	愛着の絆をつむぐ子どもとの関わり	山田眞理子(NPO法人子どもと保育研究所代表)	子どもの愛着形成に何が必要か、もつれてしまった関係をどのようにほぐすのかを、保育実践の中から見えてくる親子の愛着の問題について学び考える。
8月19日	家族と暮らす子どもの権利	山本裕子(西南学院大学教授)	子どもの権利条約や国連子どもの代替養育に関するガイドラインにもとづく、子どもの村福岡とSOS子どもの村の実践を学び、育親の養育実践を聴く。
		坂本雅子(子どもの村福岡 村長)	
		ゲストスピーカー 子どもの村 育親	
10月21日	家族と暮らせない子どもたちと実家族の支援	松崎佳子(九州大学大学院人間環境学研究院教授)	社会的養護の子どもたちの実家族の背景や子どもとの関係、その支援について学ぶ。
12月16日	小児科医からみた子ども・親・地域	進藤静生(しんどう小児科医 院長)	町のお医者さんとして親子を見続けてきた小児科医の視点から、親子と家族を取り巻く地域のあり方について学ぶ。

#### 2013年以降

	社会的養護の現状と課題/SOS子どもの村の取組み		
	愛着と喪失/子どもの発達		
	子どもの権利		